

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200288	
法人名	医療法人慶成会	
事業所名	グループホームいわき	
所在地	〒036-1325 青森県弘前市大字一町田字村元711番地3	
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成29年10月18日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした家庭的な雰囲気の中での生活が出来る。入居者の一人一人に職員の目が行き届き、安心安全な生活が出来る環境づくりを目指している。地域の催し物にも積極的に参加します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

毎日の朝礼で理念を唱和する事で日々の生活の中で意識しながら支援されている。月1回全体会議も開催され入居者の状況報告や研修参加者の報告、行事等の説明、職員からの意見、改善点など聞き取り、共通理解を図っている。近隣にはスーパーなどもあって職員が食材を買い出しに行く際は、入居者と一緒に行くなど、外出機会を増やし地域の人たちとの交流が図れる様、楽しみが見出せるよう支援している。運営推進会議には地域の関係や家族の参加もあり、現在の生活状況など説明し、共通理解を図れる様にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有する為、理念作りから始め毎朝唱和し、実践につなげている。	理念をもう一度職員で話し合い、誰でも分かりやすく地域密着型のサービスを意識した理念に変更し、毎日の朝礼の場で唱和される事で職員も意識しながら日々の支援に心がけている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスに位置付けられている意味を考え、地域との関わりを密に図るように心掛け町内の行事に参加したり訪問を受け入れている。年4回発行の通信を回覧板で町会に回している。	毎年町内のお祭り等の行事に呼んで頂き、参加している。また、同法人の祭り等の行事に参加され、交流を図っている。また、独自で作成した通信を配布しながら地域住民との係りを深めている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員会を通して日常生活の報告や、研修で得た知識を学習している。相談、見学は自由に行える。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々と職員2名が出席し開催されている。会議ではホーム内の報告だけではなく、出席者の気づきや毎回の課題を話し合い意見交換によりサービス向上に努めている。	定期的に運営推進会議には家族、民生委員、老人クラブ会長が参加され、意見や行事報告等を行っている。会議後は記録をまとめ、職員に口頭でも説明するが、会議録を誰でも見られるところに置きみんなで共有し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で相談せず、分からぬ事がある時は市役所の担当窓口に出向き相談している。提出書類なども出来る限り郵送せず、足を運び顔を覚えてもらう様にしている。	毎月市役所に行く機会があり、その都度相談し、サービス向上に繋げている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な事は勿論であるが、言葉による拘束をしていないか全職員が常日頃注意を払っている。外部研修後の報告を全体会議で伝えている。玄関は常に解放している。	外部の研修に参加した際は報告書を作り、職員に報告し、誰でも確認できるようにしている。また、行政からも身体拘束について説明を願いしており、職員の資質向上に努めている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修に参加したり外部から講師を招き内部研修を行って、虐待とは何かを考え、小さなものでも見逃さない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修に参加し、研修発表を行い、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者による充分な説明を行っており、又ご家族や、入居者には自由に見学や、疑問点に対応出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置したり、面会時やホーム内の行事に参加してもらい、意見や要望を取り入れ、運営やケアプランに反映している。	意見箱を設けており、面会時に家族からの意見を聞き取る様声がけしている。また、その都度入居者の状況を説明し、良好な関係をつくる様心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の前に職員の意見や提案を集約話しやすい環境を提供している。	毎月の全体会議で職員に意見を出してもらうようしている。また、その都度管理者が個人面談なども行なっており、一人ひとりの意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の資格や日頃の努力の成果を確認する機会がない。給与水準に関しては、毎年検討、給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画において個々に合った研修に参加出来るように努めている。又、資格取得の職員に対しても全面的にサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク会議に参加したり、系列グループホームの職員と交流をしている。又、外部研修に参加し他施設職員と交流を深めお互いの施設の情報を交換し、サービス質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本調査をしてケアマネージャーからの情報を基に本人、家族と面会し抱えている問題や、不安に思う事をアセスメントし本人の安心感を確保している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本調査をして、家族と面会しそれぞれが抱えている不安や悩みを傾聴し要望を聞き入れ信頼に繋げている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを使用し課題を見つける。本人にとって必要とされるサービスを検討、支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に家事仕事や軽作業を行い、本人の残存機能を活かせるように工夫している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や友人との交流を行えるよう面会や電話で連絡を取っている。家族の面会は最低でも月1回はある。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り夫婦、兄弟等会いたい時に会わせられるように支援している。自宅付近に通院していた病院がある場合は顔なじみが多く継続して受診している。	入居者の方はほぼ地元の人で、家族や友人もグループホームに面会に来たり、また、街の行事に参加することで今までのなじみの関係を継続されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の作業や活動を一緒にしない、入居者同士が声掛けをし合い協力できるような場を作り、孤立する事なくお互い助け合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じられるように声掛けしたり長期入院者には面会に行き、ご家族には電話で行って来た事を報告している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23 (9)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や個々の生活暦を家族や本人から聞き取りした事により本人の思いを把握し、生活に反映している。	入居する前に本人や家族と面談し、今までの生活と変わらないようにしている。また、日々の生活の中で本人の思いなども聞き入れながら生活に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族や本人より生活暦や生活環境等の情報を得、実態把握に努め、アセスメントに記入し、職員が統一したケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のプライバシーを配慮しながら本人の1日の暮らしぶりを観察し「出来る事」「出来ない事」を把握している。		
26 (10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討、ユニット会議において本人や家族、担当職員の気付きを情報提供用紙に記入し職員の意見を聞き介護計画を作成している。	毎月の全体会議で職員で話し合い、家族や本人の意向を確認しながら計画書を作っている。入居者の状態変化時にはケアマネジャーと相談し、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成し日々の記録の他、情報提供等の別の別のファイルも作成し、気付いた職員が自由に記入出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の意見を尊重し、その時々の状況、ニーズに対して柔軟なサービス提供が出来るように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者は自宅に行ってみたり、町の行事や地域の行事に参加し、交流を深めている。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の合意のもと、入居前のかかりつけ医の受診を継続している。又、急変時は救急外来を受診出来るよう体制を整えている。	本人が今までのかかりつけ医を受診できる様に家族と協力して行っている。協力医も近くにあるので入居前に説明し、本人・家族の負担も考慮し、良ければそちらを受ける体制もとられている。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員がいない為、その分職員一人一人が入居者の状態を把握し、細やかな変化も見逃さないように観察、情報共有に努めている。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供している。又、家族との連携を密にし早期退院出来るように支援している。入院中も医療機関と情報交換し連携を図っている。			
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	事業所の方針を明確にしており入居時に本人、家族に説明している。機能低下、状態悪化が確認された時は家族の同意をえて他の施設紹介等の対応をしている。	入居前に本人と家族に十分な説明をし、グループホームでの生活が困難になつたら他の事業所を紹介したり、連絡調整をしながらスムーズに入居出来る様にしており、次の移動先が見つかるまでは責任を持って支援されている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間対応も含め、全ての職員が急変時や事故発生時に備えた対応の仕方を把握している。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練を行なっている。又全ての職員が迅速に対応出来るよう平成29年4月からは2回以上避難訓練を行う様にしている。又非常食等の備品は3日分の確保が出来ている。	年二回、消防署立ち合いで日中と夜間想定での避難を行なっている。報告書もまとめられ運営推進会議等でも報告している。非常食も用意されている。	グループホームだけでの訓練実施となっているので、今後は近隣への協力も得ながら行うことで、緊急時の対応がスムーズに出来る事に期待したい。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーに配慮し、訪室の際は必ず声掛けをし、入室してからも物品に許可なく触る事はしない。声掛けの際は入居者一人一人に応じた対応をしている。	管理者は言葉使いに気を付けるよう日々の業務の中で職員に対し話している。また、入居者に対してもその人に合った話し方に気を付けるよう、対応している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解度に合わせた対応で、水分補給の際は、いくつかの選択肢を設け好みの飲み物を提供している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の任務分担を考慮し、無理のない様にゆとりのある支援をしている。希望が有れば買い物に出掛けたり、天気の良い日には気分転換にドライブに行ったりしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解度に合わせて個々が出来る様に支援している。季節に合わせた洋服選びの手伝いをしたり、買い物に行く際は一緒に出掛け、アドバイスをしている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューに希望を取り入れている。大雑把な下ごしらえは、出来る限り利用者と共にしている。	食事を作る人が食材を買いに行き、入居者にも手伝っていただいている。また、好き嫌いがある人には代替の食事を提供している。入居前に聞き取り調査を行って、調理している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量を把握し、残さず食べられる様に工夫して提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより、食後各自が歯磨きを行なっている。自分で出来ない利用者は残存機能を活かせるように声掛け、見守り、一部介助で実施している。又、週2回義歯消毒剤を利用している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在おむつ使用者はおらず、各自の尿意で排泄を行なっている。(一部介助含む)リハビリパンツ、失禁ショーツ、尿取りパットの汚染の際は声掛け、交換を促している。	現在オムツ使用者はおらず、その人にあった支援がなされている。また、排泄の自立が出来る様出来る限りの支援をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排便チェック表を活用し、個々に合わせた対応をしている。又、水分補給の充実の他、毎日午前、午後に軽体操を実施、廊下での歩行運動や天気の良い日には外へ散歩に行っている。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴にとどまっているが入居者の希望を取り入れいつでも、シャワー浴や個浴が出来るようにしている。	週二回の入浴が行われており、暑い時期などはその都度シャワー浴も行われている。また、希望に合わせ週二回以外の個浴も出来る体制である。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況を把握し、日中の活動に参加して頂き、生活のリズムを整えている。不安がないようによく傾聴し安心して休めるように心掛けている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が受診時の申し送りを徹底し、薬の内容を理解し、誤薬、飲ませ忘れのないように努めている。薬が変更になった場合体調の変化を要観察し、主治医に報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦を把握し、本人の趣味や能力をいかせる様に日常生活での役割を決め、それが実行している。ドライブ、外食、買い物に行き、気分転換に努めている。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調やその日の天候によって、出来る限り外出出来るように支援している。	天候に合わせ近所を散歩したり、食材の買い出しに行くなど、体制がとられている。入居者の希望に合わせ外出の機会を設けている。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る入居者は家族の了解のもとに自己管理をしている。外出時には買い物をして楽しんでいる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば本人に任せ、家族や友人に電話を掛け楽しんでいる。毎年暮れには年賀状を出している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁、テーブル、椅子は落ち着いたトーンでまとめ、特に奇抜な色は使っていません。壁には季節に合わせた飾りを施し、観葉植物を置いている。トイレが分からない入居者の為に、「トイレ」と見やすい所に貼ってある。	各ユニットごとにレクリエーションなどで作った物を飾り、季節を感じる様に工夫している。また、ホール内のテレビの音も入居者同士の会話の邪魔にならないようにされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを置き、テレビを見たり談話出来る空間を作っている。第2サロンにはテーブル、椅子があり自由に使える。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子、座布団、身の回り品を持ってきたり、家族写真や、自分で作った飾り等を壁に飾ったりして、思い思いに生活を満喫している。	今まで自宅で使っていた馴染みの物を持ち込み、家庭での生活と変わらない様に支援し、本人が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内には手すりが設置され、老人力ーや、杖歩行の妨げになるような物は置かない工夫をしている。サロンでのテーブル席での場所を決める事で安心感につながるように工夫している。		